

一般的なリース取引では契約期間が終了することを「満了」という。契約終了に伴う顧客対応はもちろんのこと、リースの延長（再リース）・解約・終了などの手続き、さらに物件の所有者としてリース（2次利用、転売）・廃棄、最終的な物件処分も担う。

満了は業務が広範で高い専門性も求められるため、大手リース会社では営業と異なる専門部が担当するのが一般的で、顧客との交渉力、膨大な事務処理能力、物件知識、そして

リース業界最前線

法令知識が求められる。対外交渉と大量事務の両方をこなす異色の立場で、かつリース契約の最後の仕上げを担う重要な部門だ。

満了部門に求められる最優先事項は法令順守で、例えば、廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）では産業廃棄物の排出事業者が最終処分まで責任を負うことが定められているため、返還される物件の収集運搬や廃棄処理を委託する業者は慎重に選定する必要がある。またリース時の転売先の選定にお

「満了」部門の可能性

循環型社会実現に貢献

いても、徹底した情報管理など、契約先が安心して取引できる体制を有している企業との取引が求められる。

「モノ」の目利きが

「モノ」の目利きが

肝心なリース会社では、中古売買事業を戦略的に捉え、専門部隊として組織化している

三井住友ファイナンス&リース専務執行役員



西河 哲也

場合もある。再リース収益・物件売却収益の確保はリース会社にとって貴重な収益源でもあり、ノウハウの向上が求められる。

さらにリース会社に限らず、企業の物件管理に事務の効率化は不可欠で、適切な排出物管理を可能にするアップリケーション・サービスパロバイダー（ASP）サービス（インターネット上でソフトウェアを利用できるサービス）の提供はリース会社ならではの強みである。開発目標（SDGs）の達成を後押しする、見える化・脱属人化で物件の管理や処分の順法処理を支援し、再資源化率の向上と環境負荷の軽減に貢献することとは大きなテーマだ。余地は残されている。地球規模で環境問題が深刻化する中、環境

への貢献は業界全体に期待される重要な役割だ。3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進し循環型社会の実現に貢献すること。国連の持続可能な開発目標（SDGs）などデジタル技術の活用も進むだろう。モノの賃貸の枠を超えユーザーへ総合的・複合的なサービスを提供する上で、リース取引の仕上げを担う満了部門はますます重要になる。（隔週木曜日に掲載）

モノを扱うリース会社だからこそ、モノの出口を担う満了部門は環境へ貢献できるさまざまな可能性を秘めている。

今後はさらなる業務効率化を図るためRPA（ソフトウェアロボット）による業務自動化（AI）や人工知能（AI）などデジタル技術の活用も進むだろう。モノの賃貸の枠を超えユーザーへ総合的・複合的なサービスを提供する上で、リース取引の仕上げを担う満了部門はますます重要になる。（隔週木曜日に掲載）